

2023年度 講義要綱

科目	コミュニケーション I 必修 2単位 講義		講師	中村 直美
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ) 			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての自己像を明確にする。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」鈴木八重子) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか) ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」武田優) ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代) ・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」井上まどか) ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。(認定:「絵本のある空間」飯田有美) 			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。 	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。 	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度50点	
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 オリエンテーション			
	2 コミュニケーションプログラム(1)			
	3 クラス活動(1)			
	4 カウンセリング			
	5 クラス活動(2)			
	6 産学連携			
	7 セルフコーチング(1)			
	8 セルフコーチング(2)			
	9 クラス活動(3)			
	10 クラス活動(4)			
	11 クラス活動(5)			
	12 産学連携			
	13 クラス活動(6)			
	14 クラス活動(7)			
	15 クラス活動(8)			
	16 オリエンテーション			
	17 【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:鈴木八重子			
	18 コミュニケーションプログラム(2)			
	19 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:井上まどか 課題提出			
	20 就職にむけて(1)			
	21 産学連携			
	22 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:武田優			
	23 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代			
	24 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」担当:井上まどか 課題提出			
	25 コミュニケーションプログラム(3)			
	26 クラス活動(9)			
	27 産学連携			
	28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:飯田有美			
	29 就職にむけて(2)			
	30 クラス活動(10)			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	中村直美:実務経験のある教員による授業に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。 【認定絵本士養成講座担当講師】○鈴木八重子:講座責任者 ○井上まどか:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者・障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○飯田有美:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○武田優:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2023年度 講義要綱

科目	必修 1単位 体育講義 講義		講師	菊池 一英
授業概要	生涯に渡り「健康な生活」を維持していくために、体育(幼児体育)がどのような貢献ができるか、そのための知識・技能を身に付ける。			
授業目標	1. 健康とは、体育とは、運動能力とは、発育、発達、成長とは、どのような言葉の概念規定があるかを歴史的、文化的、生理学的に学び習得する。 2. 具体的な保育場を想定して環境構成や運動遊具を活用する保育過程を理解する。			
到達目標1	1. 保育現場を想定して、実際の指導内容を、年齢発達に沿った編成ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢・グループワーク討論への貢献度(20点) リアクションペーパー提出(20点) 指導案提出(10点)	
到達目標2	2. 幼児の発育、発達の特徴を踏まえ、各年齢に合わせて、実技種目で身体を動かすことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	実技種目で積極的に体を動かす(20点) チームで協力する姿勢を見せる(30点)	
授業方法	講義形式、グループワーク・キング(GW)、DVD視聴、実技体験			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要、目標、評価、服装など)領域「健康」の中での幼児体育の位置づけとは何か？ 2 運動遊具を使う遊び(マット)※実技 3 幼児体育の意義と社会的背景とは？ 4 運動遊具を使う遊び(巧技台)※実技 5 保育現場での体育的活動の実際ー設定保育と自由保育ー<DVD視聴> 6 産学連携 7 リズムダンス遊び※実技 8 健康観の変遷 9 体育、幼児体育の歴史の変遷 10 体育遊びへの導入と展開(鬼遊び)※実技野外指導 11 健康とは何かを問い直す<DVD視聴> 12 産学連携 13 幼児期の身体発達と運動能力の特徴 14 幼児期に体力をつける、運動能力を伸ばすとは？ 15 発育・発達・成長とは何かを問い直す<DVD視聴>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	30% %	専門的知識・技術	20% %

2023年度 講義要綱

科目	保育原理 必修 2単位 講義		講師	大河 芙美
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して保育の知識や目的などを学習する。 ・子どもの姿を知り、子どもに寄り添う保育を考える。 ・グループ学習やゲームを通して、保育者にとって大切なコミュニケーション力を養う。 			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の考え方、自己分析力、観察力を養い、自ら行動する積極性を身に付ける。 ・チームワーク、連携を大切に、安定した人間関係が構築できるようになる。 			
到達目標1	積極的に授業に参加し、社会人としての心得を身につける。また、コミュニケーションをとりながら自分が大切にしたい保育を探ることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席率、30点 授業態度(積極性、コミュニケーション力など)30点	
到達目標2	保育士として使用、守るべき法令、規則が何でどこを確認すればよいか分かるようになる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	テストによる評価、40点	
授業方法	コミュニケーションスキルを身に付けるためにグループワーク、ディスカッションゲーム、課題解決学習など、様々な学習形態を経験していく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス～授業の進め方、保育とは何か 保育の目的と意義～ 2 保育の思想と歴史の理解 3 保育に関する法令、制度について 4 子どもの最善の利益とは 5 子ども・子育て支援新制度 6 産学連携 7 保育所保育指針とは 8 子どもの理解に基づく保育の過程 9 保育者の役割と責務 10 保育内容について 11 子どもを理解する～事例検討～ 12 産学連携 13 子どもを理解する～事例検討～ 14 保護者支援・対応の在り方 15 保育の現状と課題 まとめ 			
必須テキスト	『保育所保育指針解説』平成30年3月、厚生労働省			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにて配布いたします。			
担当教員の 専門分野等	実務経験ありの教員による授業。幼稚園教諭、障害児保育、認可、認証保育園など様々な現場で勤務し、2020年まで株式会社の保育園で園長として勤務。現在、株式会社の本社で保育運営の担当部長として保育園運営、研修、監査、園長指導、運営指導に携わる。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	30% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	10% %

2023年度 講義要綱

科目	教育原理 必修 2単位 講義		講師	難波 知希
授業概要	「教育」と呼ばれる人間の営みについて、歴史や思想、制度などに焦点を合わせながら幅広く学ぶことによって、受講者が「教育」について確かな思考を紡ぐことができるようになることを目指します。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する様々な歴史・思想・制度・組織・実践・社会の諸領域との関わりなど幅広い知識を習得する。 ・習得した知識を現代の教育課題につなげて一人ひとりが考えを深められることを目指す。 			
到達目標1	「教育」をめぐる諸問題について、他の受講者との議論を通して、自分なりに思考を深めることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み状況(30点)	
到達目標2	「教育」をめぐる諸問題について、各回の講義内容を踏まえながら、客観的に論じることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	各回に課す小テストあるいは小レポート(70点)	
授業方法	講義を基本とします。適宜視聴覚教材も使用します。また、他の受講者と議論を交わす機会も設けます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 導入／教育学概論(1):教育学的思考の基礎 2 西洋教育史(1):子どもをめぐる史的展開 3 西洋教育史(2):包摂と排除の史的展開 4 日本教育史(1):近代教育の原風景 5 日本教育史(2):近代教育の成立と展開 6 産学連携 7 日本教育史(3):戦後新教育とそのゆくえ 8 教育思想(1):近代西洋の教育思想 9 教育思想(2):近代教育批判の水脈 10 教育制度論(1):教育基本法と学校教育法 11 教育制度論(2):学習指導要領の史的変遷 12 産学連携 13 現代教師論(1):教職の特徴と専門性 14 現代教師論(2):これからの学校改革 15 教育学概論(2)／総括:教育の理論と実践 			
必須テキスト	特に指定しません。			
参考文献	授業中に適宜紹介します。			
担当教員の専門分野等	近代日本教育史。近代日本における学校と国家、社会との関係について研究を深めています。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	30 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

2023年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉 必修 2単位 講義		講 師	藤高 直之
授業概要	現代の子育て家庭を取り巻く社会的状況と、社会環境の推移に伴う家庭の形態や役割の変化について理解するとともに、子どもが健やかに成長するために必要な子どもや子育て家庭への支援について学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 			
到達目標1	現代の子育て家庭を取り巻く社会的状況と、社会環境の推移に伴う家庭の形態や役割の変化について説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	子どもが健やかに成長するために必要な子どもや子育て家庭への支援について説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)	
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・子ども家庭支援の意義と必要性 2 子ども家庭支援の目的と機能 3 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 4 子どもの育ちの喜びの共有、子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 5 保育士に求められる基本的態度、家庭の状況に応じた支援 6 産学連携 7 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力 8 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 9 子育て支援施策・次世代育成新施策の推進 10 子ども家庭支援の内容と対象 11 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 12 産学連携 13 地域の子育て家庭への支援 14 テスト・振り返り 15 まとめ:要保護児童等及びその家庭に対する支援 			
必須テキスト	「新基本保育シリーズ6 子ども家庭福祉 第2版」中央法規出版 ISBN978-4-8058-8786-8			
参考文献	参考資料は授業時に紹介。			
担当教員の専門分野等	子育て支援を中心とした子ども家庭福祉分野を専門とする教員。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

2023年度 講義要綱

科目	社会福祉		必修 2単位 講義	講師	佐々木 和裕
授業概要	現代社会の特質と社会福祉の概念を学び、社会福祉を支える原理を考えてみる。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。 				
到達目標1	福祉のこころを理解し、現代社会の状況を考えていくことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30点) + テスト(50点)		
到達目標2	将来の職場において、社会人、専門職として知識・技術を備え活躍する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	確認問題、アンケート(20点)		
授業方法	講義形式。テキストの内容に関連するプリントを活用していく。わかりやすい、ていねいな授業を目指す。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉とは何ぞや 憲法の13条・25条を考える 2 社会福祉の歴史 日本の社会福祉の歴史 3 社会福祉の歴史 ヨーロッパにおける社会福祉の歴史 4 社会福祉法制と行財政 5 ソーシャルワーク概念 6 産学連携 7 最低生活保障と生活保護制度 8 児童家庭福祉の課題 9 児童家庭福祉の相談機関と施設 10 障害者総合支援法 障がい者の自立と福祉 11 高齢者の生活と福祉 12 産学連携 13 地域福祉の展開 14 地域福祉包括ケアシステム これからの福祉 15 試験 				
必須テキスト	新 社会福祉とは何か(大久保秀子著、中央法規)				
参考文献	授業中に紹介				
担当教員の専門分野等	実務家教員 社会福祉士・精神保健福祉士として、現在 成年後見人として活動中。専門学校を中心に教育歴35年				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	30 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	10 %	

2023年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I 必修 2単位 講義		講 師	森脇 晋
授業概要	今日、子どもを取り巻く環境は多様化複雑化し、保育所に通う園児の中にも社会的養護を必要とするものがある。そこで、保育者としてどのような職場で活躍するにせよ、自身に関わる子どもの最善の利益を守るために必要な最低限の社会的養護の知識・マインドの習得を目指す。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。 			
到達目標1	社会的養護の概念を理解し、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の役割を説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	第7講における小テスト(15点)、期末試験(第15講における総まとめテスト) (30点)	
到達目標2	社会的養護の現状と課題、将来像を子どもの人権擁護の観点や歴史・制度等を踏まえて説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	各講における発表・リアクションレポート(30点)、レポート課題(25点)	
授業方法	具体的な事例や動画を織り交ぜながら、受講者自身が考える場も用意した講義を展開する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と社会的養護 ・社会的養護って何? ・児童福祉法における社会的養護の方向性 2 社会的養護の仕組み ・「施設養護」と「家庭養護」 ・社会的養護にかかわる機関と関連する法律 3 措置を基本とする施設 ・措置制度とは ・乳児院・児童養護施設・児童自立支援施設・児童心理治療施設 4 利用・契約を基本とする施設 ・利用契約制度とは ・障害児入所施設・児童発達支援センター・母子生活支援施設等 5 施設に至るまでの経過 ・一時保護所 ・シェルター等 6 社会的養護の歴史 ・日本の社会的養護の歴史 ・海外の社会的養護の歴史 7 小テスト、振り返り ・1～6回までのまとめ ・1～6回までの補足 8 子どもの人権擁護と社会的養護 ・被虐待児等の人権擁護 ・社会的養護における虐待 9 支援の実際 ・社会的養護に携わる人々 ・社会的養護の支援内容 10 ソーシャルワークと家庭支援 ・ジェネラリストソーシャルワーク ・ファミリーソーシャルワーク 11 里親制度と里親支援 ・「里親制度」と「養子縁組制度」 ・里親支援 12 施設等の運営管理 ・施設・里親等の運営 ・施設等のリスクマネジメント 13 社会的養護の課題と将来像 ・社会的養護の課題と将来像に基づく運営指針 ・新しい社会的養育ビジョン 14 社会的養護にかかわる専門職の倫理と研鑽 ・施設の紹介動画等 ・施設職員の生涯研修体系 15 期末試験(総まとめテスト)、振り返り ・1～14回を通した振り返りのためのテスト ・総まとめテストの解説を通した全体の振り返りと補足 			
必須テキスト	図解で学ぶ保育 社会的養護 I (萌文書林)			
参考文献	授業内で紹介する			
担当教員の専門分野等	母子生活支援施設における施設長経験や、運営指針・ビジョン等の策定に携わった経験を元に、社会的養護の概念から最新動向に至るまでを、具体的な事例や動画を織り交ぜながら、受講者自身が考える授業を志向する。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

2023年度 講義要綱

科目	保育の心理学 必修 2単位 講義		講師	前川 圭一郎
授業概要	1. 保育実践に関わる発達心理学の基礎知識を学ぶ。 2. 発達心理学や学習心理学の知見と保育実践を結びつけながら学ぶ。 3. 環境と個の相互作用の視点から、個々の発達について			
授業目標	教育・保育に関わる心理学の基礎的知識を習得し、子どもの発達と学習の過程への理解を深めることを目的とする。 生涯発達の過程とともにその発達が人との相互的関わりを通してなされていくことを理解する。また、子どもの学習の過程に関する基礎的知識を身につけ、主体的な学習を支える基礎を身につける。			
到達目標1	重要な発達理論を理解し、各発達時期の特徴と課題を結び付けて説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(毎回の授業終了時に行うアクションペーパー・小テストへの回答、20点)+定期試験(30点)=合計(50点) 意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。	
到達目標2	発達と学習の理論を踏まえて、「環境と個の相互作用」という視点から幼児の発達を説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(グループワーク中に行うワークへの参加、20点)+発表レポート(30点)	
授業方法	授業は、遠隔の場合、ZOOMによる講義を実施し、グループワーク、課題解決学習等を実施する。 対面の場合、講義・演習形式で行う。具体的には、課題解決学習、ロールプレイ、等を実施する。			
授業計画	1 オリエンテーション:「心理学」・「発達」とは何か? 2 身体機能の発達と運動機能の発達 3 乳幼児期の特徴と発達 I 4 乳幼児期の特徴と発達 II 5 幼児期の特徴と発達 I 6 産学連携 7 幼児期の特徴と発達 II 8 ことばとコミュニケーションの発達 9 情動・社会性の発達 10 発達の多様性と凸凹について 11 「愛着」その誤解と実際 12 産学連携 13 エビデンスに基づいた保育(ABC分析) 14 就学移行支援と学齢期の支援 15 テスト			
必須テキスト	毎回の授業時に資料を提供する。また、副読本については、授業において随時紹介する			
参考文献	『保育学用語辞典(保育領域)』秋田(2019)、中央法規			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所へのコンサルテーション・発達障害児の支援方法を研究。 『保育学用語辞典』、『段階別でわかる! 発達が気になる子のやる気を引き出す指導法』等を分担執筆。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2023年度 講義要綱

科目	子どもの理解と援助		必修 1単位 講義	講師	森脇 晋
授業概要	様々な児童福祉施設で生活する子ども達の様子、現状を学ぶ中で、子どもの「発達」を捉える視点を養う。子どもの健やかな発達に必要な「環境」と「関わり」について理解を深め、その担い手になるための準備を進める。				
授業目標	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する				
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)		
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、講義内容に関するレポート試験(40点)		
授業方法	ワークシートを用いた講義				
授業計画	1 オリエンテーション:「子どもの理解とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちを支える現場を知る 3 子どもの育ちを支える現場①:乳児院 4 子どもの育ちを支えるために必要なこと①:乳児院の現場から 5 子どもの育ちを支える現場②:児童養護施設 6 産学連携週 7 子どもの育ちを支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から 8 子どもの育ちを支える現場③:母子生活支援施設 9 子どもの育ちを支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から 10 子どもの育ちを支える現場④:障害児入所施設 11 子どもの育ちを支える現場⑤:障害児通所施設 12 産学連携週 13 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設/通所施設 14 「理解と援助」のために:障害者支援施設の現場から 15 学期末試験				
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2023』全国保育士養成協議会(監修)、宮島清・山縣文治(編集)、中央法				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の専門分野等					
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2023年度 講義要綱

科目	子どもの保健 必修 2単位 講義		講師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康の定義や保健の意義を理解する。 2. 子どもの生理的解剖および機能を学び、子どもの健康維持に必要な身体的知識を理解する。 3. 子どもの心身の発達について基礎的な知識を理解する。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
到達目標1	1. 子どもの解剖および生理的機能、心身の発達について理解する。 2. 社会環境や制度、保護者との係りなどを通して、子どもの健康の維持、増進についての理解を深める。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	定期試験(80%)＋リアクションペーパー・小テスト(15%) ＋提出物(5%)＝合計(100%)を総合して評価します。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	1. パワーポイントや図、グループワークなども取り入れ、内容の理解につなげ、学生が考えながら学ぶ授業構成とする。 2. 興味を持つように看護師及び子育ての体験談、社会報道の紹介等の工夫を行う。			
授業計画	1 心身の健康の定義と保健の意義、学ぶ必要性を理解する。 2 母体の妊娠～出産までの経過および、新生児の特徴を学び理解する。胎児期～出生時の障害児を学ぶ。人体の恒常性について 3 身体発育・運動機能発育の特徴を学び、理解する。 4 子どもの病気の特徴を学び、理解する。 子どもが病気になった時、体調不良の表現方法や知らせ方など子どもならではの特徴を学び、理解する。 5 子どもの循環器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。心臓、血管、血液、脈拍、血圧など。 6 産学連携 7 呼吸器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。肺、呼吸のしくみ、上気道炎、SIDSなど。 8 消化器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。胃、腸、胃腸炎、下痢など。 9 泌尿器系、内分泌、生殖系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。腎臓、ホルモン、生殖器、排泄(排尿、排便)など。 10 感覚系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。目、鼻、口、耳、触覚、五感覚器など。 11 脳神経系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。脳、神経、原始反射など。 12 産学連携 13 その他の疾患について学ぶ。悪性腫瘍、障害など 14 各感染症の感染経路と予防接種について学び、理解する。 15 総まとめとして定期試験を行う。			
必須テキスト	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版 授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布します。			
参考文献	授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布します。			
担当教員の 専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科など)。 取得資格・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。 出産後、小児科クリニック看護師業務。 看護業務と共に、大学、短大など兼任講師を行う。 テキスト『子どもの保健と安全・第5章』執筆。 女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。 子育て支援コミュニティ「KiraKira」発行。母子支援NPO「SKIP」を設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5% %
	社会人としての基本	5% %	主体性 素直 思いやり	5% %
	他者と関わる力	5% %	専門的知識・技術	70% %

2023年度 講義要綱

科目	子どもの食と栄養 必修 2単位 講義		講師	深川 卯子
授業概要	子どもの発育・発達と食生活の関連について栄養素などを通して学ぶ。 食育の基本とその内容・食育のための環境について学ぶ。 アレルギーなどの配慮の必要な子どもの食について学ぶ。			
授業目標	食品や栄養のことを理解し子どもや保護者に対して食育を行うための知識を習得する。 子どもに適切な食事がどのようなものか 献立などにどんな食品の組み合わせが適切かなどを通して理解し保育現場で対処できる			
到達目標1	子どもが食事をするとき適切に対応できる(楽しく食べる、バランスよく食べるなど)離乳食・幼児食含むアレルギー食を理解し対応できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に対する筆記テスト 通常の食事40点 アレルギー対応20点 離乳食20点	
到達目標2	保護者や子どもに食育を行うことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	食育の計画書20点	
授業方法	教科書に沿った講義形式による。復習テストを実施して理解を深める。 手元に教科書をおいて授業を受けてください。			
授業計画	1 発育期の食生活と栄養について、食育の大切さなど 2 栄養素について 基本の働きと食事 3 栄養素について 炭水化物、脂質、たんぱく質 ミネラル ビタミン 4 食事摂取基準について 幼児に必要な量は 5 栄養素と食品の関係 6 産学連携 7 乳汁期の食生活 8 離乳期の食生活1 9 離乳期の食生活2 10 幼児期の食生活 11 食品群と献立 幼児の一日の食事(献立)例をもとに 12 産学連携 13 食育について 14 食物アレルギーについて 15 テスト			
必須テキスト	『発育期の子どもの食生活と栄養』学建書院			
参考文献				
担当教員の専門分野等	栄養の基礎(人体内における代謝など)。特に脂肪酸についての研究。調理と科学(小麦の特性について)。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2023年度 講義要綱

科目	保育の計画と評価 必修 2単位 講義		講師	中山 利彦
授業概要	保育所保育指針と同指針解説書を用いながら、保育の計画と評価について、どのような意義と理由によって学び、保育士として理解し習得すべきことを重点的に学んでいく。その際、保育理論に関わる部分も同時に履修する。			
授業目標	1. 保育の全体的な計画及び指導計画を立案作成する意義と理由を理解する。 2. 全体的な計画に基づく長期・短期の指導計画の作成及び評価の仕方について実際の作成事例を参照しながら、計画及び評価についてどのような点に留意しなければならないのか理解し、その方法を身に付ける。			
到達目標1	1. 毎回の授業において習得したことを文字等で表現できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、授業において学んだことに関するレポート(30点)	
到達目標2	2. 毎回の授業において習得した内容を質問や意見として深めながら保育の計画と評価の全体像をイメージできる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への貢献度(20点)、授業内容に関する質問や自己意見のレポート(30点)	
授業方法	1. 保育所保育指針と同解説書を用いながら、保育の計画と評価の意義と実践について座学形式で学ぶ。 2. 授業内で用いるテキストを学生が音読することで履修内容を確認する。			
授業計画	1 なぜ保育の計画と評価について学ぶのか。見守る保育の三省について。こども園について。 2 保育とはそもそも何をすることか。保育所保育の目標。子どもの最善の利益、他。 3 保育とはそもそも何をすることか。児童福祉法、子ども基本法、子どもの権利条約他。 4 人的環境、物的環境、空間的環境及び養護と教育の一体性について。 5 保育の方法—子ども主体、子ども相互の関係づくり、他。 6 産学連携週 7 計画性のある保育を実践することの意義。子どもの発達。 8 指導計画のおおもととなる「全体的な計画」はどのような意味で作成されるのか。誰が作成するのか。 9 長期的な指導計画と短期的な指導計画を作成すること。3歳未満時には個別の指導計画を作成すること。 10 子どもの実際の姿に基づいて計画を作成する。保育士が一方的に与える計画とはならないような指導計画の作り方。 11 子どもの主体的な活動を促す保育士等による多様な援助を引き出すような指導計画の作り方。 12 産学連携週 13 自らの保育実践を振り返りながら、自己評価をすること。 14 職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための評価。 15 子どもたちを見守る保育とは。なぜ、見守る保育なのか？保育の計画と評価の観点から総まとめをする。			
必須テキスト	『保育所保育指針解説』(平成30年3月厚生労働省編)藤森平司著『見守る保育』(学研)			
参考文献	平成29年告示『保育所保育指針』公益社団法人全国私立保育連盟編『コミックで発信★保育に活かす子どもの権利条約』(エイデル研究所)			
担当教員の専門分野等	23年間認可保育園、認定こども園にて園長・副園長として現場勤務。保育者等の管理者として、子どもの権利条約、保育所保育指針に沿った保育現場の実現に携わる。現在、新宿せいが子ども園副園長、東京都福祉サービス評価推進機構評価者。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容総論 必修 1単位 講義	講 師	大河 芙美	
授業概要	子どもを理解し、成長、発達に望ましい関わりができるよう、一人ひとりの育ちを把握し、柔軟な対応力を養う。			
授業目標	各年齢の発達過程を学び、保育内容や導入、その展開方法を学び理解する。			
到達目標1	自己理解を深め、目標に向かって主体的に取り組むとともに、他者との関わりを通して信頼関係を築くことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席率、40点 自主的な関わり、20点	
到達目標2	専門的知識や知見を習得し、柔軟に活用することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	他者との協力、20点 グループ制作、20点	
授業方法	グループワーク、ディスカッションなど、コミュニケーションを大切にした授業。			
授業計画	1 オリエンテーション 2 保育所保育指針を理解する① 3 保育所保育指針を理解する② 4 保育所保育指針を理解する③ 5 産学連携を踏まえた、子どもとの関わり 6 産学連携 7 産学連携から得た学びのディスカッション 8 子どもの育ちを理解する① 9 子どもの育ちを理解する② 10 遊びを学ぶ 11 産学連携を踏まえた、子どもの遊び 12 産学連携 13 産学連携から得た学びのグループディスカッション 14 模擬保育を考える 15 模擬保育を実践する			
必須テキスト	必要時にプリントを配布			
参考文献	保育所保育指針			
担当教員の専門分野等	実務経験ありの教員による授業。幼稚園教諭、障害児保育、認可、認証保育園など様々な現場で勤務し、2020年まで株式会社の保育園で園長として勤務。現在、株式会社の本社で保育運営の担当部長として保育園運営、研修、監査、園長指導、運営指導に携わる。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	10 %

2023年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・身体表現遊び I 必修 1単位 講義		講師	松森 照幸
授業概要	幼児体育の意義を知り、身体を実際に動かして子どもが遊びを通してどう発達につながるか、年間指導計画を個人またはチームで協力して考える。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	・幼児の心身の発育・発達に即した、幼児体育の理論を学び理解する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、提出物(20点)による総合評価	
到達目標2	・年齢発達に合わせて、個人、グループワークで授業のまとめを行い、理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、発表内容(20点)	
授業方法	・幼児体育の意義、保育者の役割を知り、発達に応じた運動遊び計画をグループで話し合いながら、作成し、発表を体験する。			
授業計画	1 幼児体育の意義、運動指導のポイントと保育者の役割 2 実技 (徒手運動、マット運動、じゃれつき遊び) 3 実技 (跳び箱、鉄棒、縄跳び) 4 幼児期運動指針のポイント、幼児体育の始まりの流れ 5 幼児の健康課題 6 産学連携 7 各運動能力の発達に適した時期、調整力とは 8 実技 (親子体操など) 9 指導者の役割、幼児体育プログラム作成上の留意点 10 グループワーク① …幼児体育、発達に適した年間計画作成 11 グループワーク② …幼児体育、発達に適した年間計画作成 12 産学連携 13 グループワーク③ …幼児体育、発達に適した年間計画作成 14 グループワーク④ …幼児体育、発達に適した年間計画作成 15 グループワーク発表 ※授業の内容は進み具合によって変更する場合があります。			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし 授業中に紹介			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年保育現場に勤務し、保育現場に携わる。現在は幼稚園、保育園で幼児体育講師として勤務			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %

2023年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・音楽遊び I		必修 1単位 講義	講師	上田 亜津子、木下 裕子、大須賀 かおり、鈴木 真智子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、感染予防のため必ずイヤホンまたはヘッドフォンを持参してください。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(50点)、実技試験発表(50点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(50点)、実技試験発表(50点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) (B)2グループに分かれて45分で入れ替わる 2 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)わらべ歌・手遊び歌の演習 8 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)リズムを含む歌遊びの演習 11 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) (B)共 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)(B)共				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいのお歌』教育芸術社				
参考文献	随時講師が準備する。				
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リズム指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	

2023年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅠ		必修 1単位 講義	講師	田中 映理
授業概要	保育に必要な「造形」に関する理解を深め、表現技術も併せて習得する。そして作品製作を通して、自由な表現力を身に付ける。特に「子どもの遊び」をかなめとし、自らも造形活動を楽しむ心を持つ。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	毎回参加し、学びを理解する。そして授業時間内に実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	真摯な授業参加(常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない) 40点+創意工夫10点		
到達目標2	<座学> 幼児の絵画を理解し説明できる。<実技> 造形技術を習得し、遊びを援助できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品提出(作品を撮影しteamsに画像を提出、締切日厳守) 40点 +その他 ①グループワーク等での周囲との協力 ②制作後の清掃・片付け等の社会的マナー ③期日までの課題提出、出席状況、課題提出状況等の自己管理能力等 10点		
授業方法	1.実技 2.座学 (基本毎回課題提出)* 社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更 ★オンライン授業予定				
授業計画	1 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール:クレヨン等でのコイノボリ制作 2 こすり出し・フロッタージュ、校内凸凹探し:ちょうちょ 3 丸三角四角の組み合わせ:形の組み合わせ 4 デカルコマニー:デカルコマニーを用いた自由作品 5 <講義1> 絵画の発達段階について ★:記入プリント 6 産学連携 7 はじき絵・にじみ絵①:はじき絵・にじみ絵を用いた自由作品 8 はじき絵・にじみ絵②:はじき絵・にじみ絵を用いた自由作品 9 紙コップ(または紙皿)工作:紙皿または紙コップを用いた工作作品(カエルか魚) 10 スタンプ:野菜などを用いたスタンプ作品 11 <講義2> 幼児画の特徴 ★:記入プリント 12 産学連携 13 引っかき絵(クレヨン・クレパス)、色:引っかき絵を使った作品(花火) 14 紙の加工、ハサミ:紙の飲み物、カタツムリ 15 自然物を用いた制作(雨天変更)またはお面製作				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	特に指定なし				
担当教員の専門分野等	なかむら:絵本作家、イラストレーター 川原:児童教育全般、図画工作、美術 田中:イラストレーター				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2023年度 講義要綱

科目	乳児保育 I		必修 2単位 講義	講師	藤間 理紗子
授業概要	0～2歳児保育における保育士の役割を学ぶ。 保育所保育指針を踏まえ、0～2歳児の発達を理解し、実際に活用できる援助方法を習得する。				
授業目標	乳児期の発達を理解し、その重要性への理解を深め、保育実践に活かせる保育者としての専門性を身につける。				
到達目標1	・乳児期の発達を理解し、保育を身近に感じて実践に繋げて捉えらえることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み…30点、授業内でのレポート…20点		
到達目標2	・乳児期の保育においては保護者との連携が大切であることを理解し、保護者の立場になって考えてみる事ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み…30点、授業内でのレポート…20点		
授業方法	事例や映像・写真を見ながら、保育現場を身近に感じられるように進めていく。				
授業計画	1 乳児保育とは 2 子育て支援の現状 3 保育所と保育所以外の児童福祉施設における乳児保育 4 0歳児前期の発達 5 0歳児後期の発達 6 産学連携 7 0歳児の生活と環境 8 0歳児の遊びと環境 9 1歳児の発達 10 1歳児の生活と環境 11 1歳児の遊びと環境 12 産学連携 13 2歳児の保育 14 乳児保育の計画と記録 15 職員間の協働と保護者との連携				
必須テキスト	特になし				
参考文献	適宜紹介				
担当教員の専門分野等	実務経験者。 保育園に勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %	

2023年度 講義要綱

科目	乳児保育Ⅱ		必修 1単位 講義	講師	藤間 理紗子
授業概要	乳児保育Ⅰで修得した知識を基に、乳児保育の基本や発達を踏まえた生活と遊びの配慮や保育計画を学び、実践に応用できる力をつける。				
授業目標	乳児の発達の過程や特性を踏まえた援助や関わり、社会的背景を理解し、実践に応用できるようになる。				
到達目標1	・3歳未満児の発達の特徴に合わせた援助や関わりを理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席状況50点、授業への取り組み30点、授業内でのレポート20点		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	保育の様子を映像や写真で見ながら、保育現場の実際を知り、計画の作成や記録をとる経験をする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳児保育の基本(乳児保育Ⅰの復習) 2 乳児保育の実際 ①ミルクと離乳食の進め方 3 乳児保育の実際 ②食事の援助 4 乳児保育の実際 ③睡眠 5 乳児保育の実際 ④おむつ交換・排泄の援助 6 産学連携 7 乳児保育の実際 ⑤衣服や着替えの援助 8 主体性と自己の育ちを大切にする保育 9 生活や遊びを支える環境構成① 10 生活や遊びを支える環境構成② 11 乳児保育における安全管理と衛生管理 12 産学連携 13 乳児保育における指導計画 14 乳児保育の記録 15 まとめ 				
必須テキスト	特になし				
参考文献	適宜紹介				
担当教員の専門分野等	実務経験者による授業。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %	

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの健康と安全		必修 1単位 講義	講 師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康や安全を守る定義や意義を理解する。 2. 子ども生命維持に必要な知識を学び理解する。 3. 子どもの安全について基礎的な知識を理解し、具体的な対策等を考慮することができる。				
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2012年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン」(平成24年11月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等				
到達目標1	1. 「子どもの保健」で学んだ総合的に保育することを踏まえ、子どもの健康保持や安全維持するために必要な知識を理解し、知識を深める。 2. 保育現場や保育活動を行う場面を想定し、具体的な安全対策および救急処置が行える。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	定期試験(80%)＋リアクションペーパー・演習態度(10%)＋提出物(10%)＝合計(100%)を総合して評価します。		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	講義、演習、グループワーク等、授業内容にそった授業形式とする。 救急・応急処置法は演習を中心に行う。				
授業計画	1 子どもの健康の維持と健康管理の必要性を考え、理解する。 2 ・子どもが体調不良を起こす原因、発生状況を知る。また予防法も理解する。 ・子どもが体調不良を起こしたときの観察点を学び、理解する。 3 子どもの体調不良時の対応方法を学び、理解する。 4 事例検討①・・・けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。 5 事例検討②・・・けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。 6 産学連携 7 産学連携を通して、気付いた危険を振り返る。 8 実際に起こった犯罪事例を通して、原因や予防法を考え、学ぶ。 保育者としての責任、定義を再確認する。 9 実際に起こった事故・事件の裁判事例を通して、保育態度が招く危険とそれに伴う罰則、裁判を知り、学ぶ。 また保育者としての責任、定義を再確認する。 10 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 11 CPR法、AED装着法、窒息時の背部叩打法を学ぶ。実際に演習を行う。 12 産学連携 13 救急処置法について学び、救急処置法を演習する。 14 子どもの感染症の予防、アレルギー疾患を学び、理解する。 15 総まとめとして定期試験を行う。				
必須テキスト	『新基本保育士シリーズ⑩子どもの健康と安全』松田博雄、中央法規。				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントや資料を配布				
担当教員の専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科など)。取得資格・・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。出産後、小児科クリニック看護師業務と同時に、女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。母子支援NPOを設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	5% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	5% %	専門的知識・技術	50% %	

2023年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ 必修 1単位 講義		講 師	森脇 晋
授業概要	社会的養護Ⅰで学んだことをベースに、施設養護や家庭養護の実際についてアクティブラーニング形式で理解を深める。具体的には、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際にも触れながら、日常生活支援・治療的支援・自立支援等の内容、子どもの福祉にかかわる保育士に求められる倫理・資質も学べるように演習する。			
授業目標	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。			
到達目標1	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容を具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	第7講における小テスト(15点)、期末試験(第15講における総まとめテスト)(30点)	
到達目標2	社会的養護における計画⇒相談・援助⇒記録⇒自己評価を理解し、実践することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	各講における発表・リアクションレポート(30点)、レポート課題(25点)	
授業方法	具体的な事例演習やロールプレー等において、受講者自身が考えるための情報提供をしつつ、演習を展開する。			
授業計画	1 社会的養護の理解のために ・社会的養護Ⅰの振り返り ・親子を救うための施設 ・特別養子縁組 2 アドミッションケア ・アセスメント ・子どもの保護 ・自立支援計画について 3 インケア(乳児院・児童養護施設等) ・信頼関係の構築 ・乳児院・児童養護施設における日常生活支援および治療的支援の実際 4 インケア(児童心理治療施設・母子生活支援施設等) ・心のケア ・心理治療施設・母子生活支援施設における日常生活支援および治療的支援の実際 5 リーピングケア ・社会への巣立ち ・生い立ちの理解 6 アフターケア ・家庭復帰に伴うアフターケア ・就職・進学によって社会へ出た子どもへのアフターケア ・地域連携 7 小テスト、振り返り ・1～6回までのまとめ ・1～6回までの補足 8 ソーシャルワーク ・ソーシャルワークとは? ・ソーシャルワークの種類 ・家庭支援と里親支援の実際を考えてみる 9 ソーシャルワークにおける利用者理解の技法1 ・これまでの実習や子どもとの関わりの場面を、バ이스テックの7原則を通して振り返ってみる 10 ソーシャルワークにおける利用者理解の技法2 ・ジェノグラム・エコマップを通して、子ども理解を深めてみる 11 社会的養護における記録 ・児童施設養護の日常生活支援における記録の取り方を通して、記録のあり方について考察する 12 社会的養護における自立支援計画 ・母子生活支援施設における自立支援計画の立案を通して、自立支援計画を策定する際の視点を考察する 13 社会的養護における第三者評価・自己評価 ・乳児院の第三者評価や自己評価を通して、施設運営上の留意点を考察する 14 社会的養護の担い手に対する考察 ・自己理解やストレナジメント・アンガーマネジメントを通して、施設保育士とバーンアウト防止に関して考察する 15 期末試験(総まとめテスト)、振り返り ・1～14回を通した振り返りのためのテスト ・総まとめテストの解説を通した全体の振り返りと補足			
必須テキスト	図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ (萌文書林)			
参考文献	授業内で紹介する			
担当教員の専門分野等	母子生活支援施設における施設長経験や、運営指針・ビジョン等の策定に携わった経験を元に、社会的養護で実際に展開されている支援を、受講者自身が実際に疑似体験しながら考える授業を志向する。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

2023年度 講義要綱

科目	保育実習指導 I a		必修 1単位 講義	講師	松森 照幸
授業概要	実習日誌の記載方法を体得したり、実習に向けて具体的な準備を進め、実技の練習、心構えを養い、保育所実習を有意義なものにするために必要事項を学ぶ。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 				
到達目標1	子どもや保育士に対する理解を深め、現場での実習生としての自分の姿をイメージできる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、保育園見学への参加やそれにまつわる提出物(20点)		
到達目標2	保育所実習に臨む態度や目的意識が持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	準備・発表(20点)その他提出物(10点)筆記試験(20点)		
授業方法	講義、発表、グループワークなど				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の概要 2 .実習の心得 個人票作成 3 保育所の1日の流れと保育内容の理解 実習目標を立てる 4 実習日誌を書く意義と記入の仕方 5 実習日誌:エピソード記録の書き方について 6 産学連携 7 部分実習指導計画について 8 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認 実習課題 9 オリエンテーションについて 実習日誌の書き方 10 手遊び・絵本の指導案作成 11 実習日誌:ドキュメンテーション記録について 12 産学連携 13 絵本の読み聞かせの発表・ペーパーサートの発表 14 まとめと振り返り 15 試験 最終確認 				
必須テキスト	「フォトランゲージで学ぶ～子どもの育ちと実習日誌・指導計画～」(萌文書林) 「平成29年告示 保育所保育指針」(チャイルド社)				
参考文献					
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %	

2023年度 講義要綱

科目	保育実習指導 I b		必修 1単位 講義	講師	森脇 晋
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 				
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するノート提出(60点)		
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、実習目標の作成(20点)		
授業方法	ノート作成を伴う講義受講				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちの理解①:愛着障害(1) 3 子どもの育ちの理解②:愛着障害(2) 4 関わりの技術①:実際の実習より(ロールプレイ) 5 関わりの技術②:「視点」を養う 6 産学連携週 7 子どもの育ちの理解③:発達障害 8 関わりの技術③:療育場面より 9 施設実習先の発表 10 施設実習への具体的準備①:個人票作成、オリエンテーション準備 11 施設実習への具体的準備②:実習目標の作成(1) 12 産学連携週 13 施設実習への具体的準備③:実習目標の作成(2) 14 実習日誌の理解と練習 15 施設実習への具体的準備:実習前/実習中/実習後にすること 				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の専門分野等					
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %	

2023年度 講義要綱

科目	子どもと保育 選択必修 4単位 講義		講師	松森 照幸
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。			
到達目標1	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。(①コマ目)	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)	
到達目標2	実習をイメージしながら、実習に必要なスキルを習得する。(②コマ目)	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)	
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。			
授業計画	1 「オリエンテーション」授業のルールと自分の学ぶべき事を理解する 2 「保育所的一天」一日のながれを知り、実習をイメージする 3 「森口先生の特別講演」保育現場の先生の講演により、保育の重要性を理解する 4 「環境図」実習日誌の最初のステップとして、環境図をかくことができる 5 「スケッチブックシアター」の制作と「保育所見学」の準備を行う 6 産学連携現場活動 7 「映像から学ぶ」色々な保育園があり、新人保育士の頑張っている姿から自分の将来をイメージする 8 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする 9 「お礼状の書き方」を知り、実践する 10 「実習データDX」を実際に経験しながら、実習への知識を増やす 11 「日誌の書き方①」日誌の基本的な約束ごとを知り、日誌を写す 12 産学連携現場活動 13 「日誌の書き方②」保育所見学したことを日誌に記入する 14 「日誌の書き方③」初めての日誌を完成させず体験をする 15 「まとめ」前期授業の中で実習にむけて自分が成長した事を確認する			
必須テキスト	なし			
参考文献	なし			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ		選択必修 1単位 講義	講師	
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、感染予防のため必ずイヤホンまたはヘッドフォンを持参してください。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(50点)、実技試験発表表(50点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(50点)、実技試験発表表(50点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) (B)2グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)わらべ歌・手遊び歌の演習 8 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)リズムを含む歌遊びの演習 11 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) (B)共 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)(B)共				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱい』教育芸術社				
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編				
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リズム指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	